



フランス

たばこ用香り付きビーズを誤飲する子どもが続出

●Anses(食品環境労働衛生安全庁)ウェブサイト

<https://www.generationsanstabac.org/actualites/recrudescence-des-intoxications-aux-nouveaux-produits-du-tabac-et-de-la-nicotine/>

EUでは、2020年5月にメンソールたばこの販売が禁止された。若者の喫煙率低下が目的だといわれている。ところが、その後、フランスで登場したのが、フィルターにセットするタイプの香り付きビーズである。メロン、イチゴ、パッションフルーツ、メンソール等の香りが若者を誘惑する。

しかし、香り付きビーズに引きつけられるのは若者だけではない。カラフルな外見のビーズをキャンディーと間違えて、子どもが誤飲したという相談が後を絶たない。詳細は、Ansesが2023年9月に公表した報告書が明らかにしている。同書によると、2017年から2022年の間に中毒情報センター(CAP)に寄せられた、たばこ関連製品の相談電話295件のうち、138件が香り付きビーズに関するものだったという。2017～2020年の4年間で6件だった相

談が、2021年に46件、2022年に86件と増加しているのが特徴である。

被害者の年齢別では、1～3歳が52.9%と最多を占めるが、成人の被害も27.9%あった。成人の場合、フィルターに挿入したビーズを誤って吸い込んだ例や、キャンディーと間違えて口に入れた例があった。全体的にみると、香り付きビーズによる被害のほとんどが軽微なものだったが、なかには、誤飲した幼児が数時間嘔吐を繰り返したという報告もあった。また、経口摂取のほかに、ビーズ破裂後に目の痛みなどを訴えたという報告も14件あった。

Ansesは、食品と間違えやすいビーズの外観や、フルーツのイラストが描かれた包装容器を問題視する。また、子どもの手の届く場所に置かないなど、家庭での保管には留意するよう注意を促す。



ドイツ

日本の伝統に学ぶ、包装ごみ削減

●ヘッセン州農業・環境省ウェブサイト

<https://verbraucherfenster.hessen.de/nachhaltigkeit/umwelt/schenken-ohne-verpackungsmuell-so-gehts>

誕生日、結婚式、クリスマス等の行事があると、大量のプレゼントが行き交うドイツ。プレゼントをむき出しのまま贈ることはなく、箱に入れて、包装紙やリボンで飾るのが通常である。しかし、“包装廃棄物の山”を減らすために、プレゼントもエコ包装にすべきという声が上がっている。

そこで、ラッピング素材として注目を集めているのが、日本の風呂敷(Furoshiki)である。布1枚で対象物を自在に包めるうえ、何度も繰り返し利用できる持続可能なグッズだとして、ドイツでも知られるようになった。ヘッセン州のウェブサイト「消費者の窓」は、風呂敷の新たな使い方を提案するとともに、風呂敷からヒントを得たラッピング手法を紹介している。

日本では物を大切に包み、持ち運ぶ道具として利

用される風呂敷だが、同サイトは風呂敷を贈り物の一部とする方法を提案する。いわば、「贈り物の中に贈り物を入れる」(Geschenk im Geschenk)という発想で、贈り物を包んだ風呂敷ごと相手に渡し、風呂敷も例えばスカーフとして使ってもらうのだという。

同様の例として、料理の本を新品の布巾で包む、トランプを新品のウール帽子に入れる、プレスレットを手編み靴下の中に入れるというアイデアを紹介する。ラッピング素材も贈り物として使ってもらうので、一石二鳥だという。もっとも、包装素材を新調しなくても、身のまわりにある新聞紙、カレンダー、余った布、空き箱、空き缶等で十分対応可能とも提案する。散歩中に見つけた花、木の葉、小枝、松ぼっくりなどをアクセントとして飾れば、素敵なプレゼントに変身すると紹介する。